

致シマス

大正十年六月二十三日

藤永田造船所

然ルニ職工中ニハ右協定退職人員以外此際半支ヲ受ケテ退スルヲ得ルナ
リトシ退職セントスルモノ不尠其四百午前八時平井元外七名ハ是等職工約
五百名ヲ代表シテ退職届ヲ提出シ午支金ノ支払ヲ要求シタル事並兼
主ハ協定条件ニ及スルヲ以テ日野國明ノ計ニ提出スル極言會ノ之ヲ拒絶シ
タリ

之ニ因シ調停者並ニ本件干渉ノ主トモト就業ヲ怠忽應シタル平井等ハ復
第ニ主張シ其之ヲ天朝ノ僕中部ニ約百名を集合セリ仍モ天朝ノ諸君ノ一時ニ退職スルハ
要領ノ運賃トモ得シタリ又愛合理事事相國駒吉ハ諸君ノ一時ニ退職スルハ
時節極宜シカラサル故可成就職シテハ如何ト復論不所アリタリ
二十二日以後ノ就業職工数左ノ如シ

	本工場	分工場	計
二十二日	二七九	四五六	七三二
二十三日	二九六	六六〇	九五六
二十四日	三七〇	九七八	一三四八
二十五日	四一八	一三五二	一六七〇
(六月廿五日)			

廿五日朝日僕中部ニ集合セシキ就未定ノ藤永田職工等ハ更ニ五名ノ代表者ヲ選ビ
相國駒吉ト共ニ同日午後七時日野國明ノ紹介ヲ得テ前野芳造ヲ訪シ六月廿二日
以後同日迄ノ給料ノ支拂ヲ懇願シタル前野ハ工場主側者ト協議ノ上四
答スハ予ヲ是レハ元々一問ハ之ヲ諒トシ其後引取りタリ

然ルニ再度ノ交渉ト相國ノ努力ノ結果全職工ハ無条件ニテ就職スルコトナリ
二十六日午前十時朝日僕中部ニ集合ノ職工約三百名ハ本社ニ復職ノ
手續ヲ為シテアリ其七日ヨリ就職シタリ

藤永田造船所ニ於ケル廿六日ノ出勤人員左ノ如シ